

# 京都府精華町立川西小学校

## 汚れにくい床素材で 乾式トイレの汚染対策。 今後は清掃方法やマナーの改善を。



1.2. 精華町では初めて洋式化と乾式化を実施。自主デザインも取り入れて児童の興味が高いトイレに変化した。

3.4. 大きな鏡や床への水跳ね汚れが目立つことなど、改修後も課題は残る。今後は清掃方法の工夫や児童のマナーの向上により、より美しいトイレとなることが期待される。

川西小学校では、2009年に行った学校校舎改築工事にもない、すべてのトイレについて洋式便器の数を増やし、床については衛生面に配慮して乾式清掃を行った。精華町では初めて洋式化と乾式清掃を行った小学校であり、自主デザインも取り入れて児童の興味が高いトイレに変化した。

今回の洋式化、乾式化したトイレについて従来のトイレと比べて良くなった点を3つあげるとすれば①明るくなった、②入りやすくなった、③臭いがしなくなったことだという。

「川西小学校は伝統的に掃除をがんばる児童が多く、物を大事に美しくする気持ちが根付いている」と関口教頭先生。

トイレの清掃は毎日15分程度をかけて5年生と6年生の児童が便器、手洗い場、床の清掃を行い、学期末には全職員が便座の裏など、隅々までチェックして掃除を行い、最後の掃除をおこなって児童が気持ちよく新学期を迎えられるようにしている。

トイレの中で汚れやすい場所のひとつに「便器回りの床」があるが、「今回の洋式化によって床に便がこぼれて汚れることはほとんどなくなった」と養護教諭の岡本先生。

トイレの床には「超防汚性ビニル床シート」が施工され、汚れが付きにくくて取れやすく、抗菌性も備えた床となっており、洋式化、乾式清掃化と合わせて床の素材面からも汚れと臭い対策がとられている。改修前の床タイルと比べてビニル床シートは目地がないこともあり、「掃除がしやすくなり、児童が抵抗なく掃除ができるようになった」（岡本先生）

このように対策されたトイレでもまだ以下のような課題が残っている。

「まずはスポンジモップで床を水拭きした後、床表面がすぐに乾かず児童の足跡が目立つことが気になる」（岡本先生）

特に寒い時期はスポンジモップをよく絞って清掃を行うことが必要であろう。また手洗い場の大きな鏡や床への水跳ね汚れが目立つこと、トイレが入りやすくなった反面、遊び場になること、パニック時の清掃方法が難しいこと、などがあげられた。トイレの洋式化、乾式清掃化、そして建材の素材面での対策も進む中で、今後は清掃方法の工夫や生徒のマナーの向上が、より美しく清潔なトイレを作っていくことになるだろうと考えられる。